

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスクあざみ野保育室
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	横浜保育室
事業所住所	〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘5-31-6
設立年月日	平成9年 7月 1日
評価実施期間	平成25年 1月 ~26年 5月
公表年月	平成26年 8月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

【施設の特色】

1. 立地及び施設の概要

生後3か月から2歳児を対象とした、定員42名、現在籍34名の平成9年に開設した横浜保育室（横浜市が認定し助成する認可外保育施設）です。平成20年に株式会社日本保育サービスに経営移行しています。園は、東急田園都市線、横浜市営地下鉄あざみ野駅から徒歩15分の閑静な住宅地にあります。3歳児から5歳児を対象とする別法人の幼児施設と園舎や広い園庭を共同で使用しています。園近くには大きな公園があり、十分に体を動かせる環境が整っています。

2. 多彩なプログラム

モンテッソーリ教育に基づく、教具（木製の玩具など）での遊びや「ボタンはめ」など集中して作業を行う「お仕事」の時間を設けています。また、クッキング保育、専門講師による英語や体操、隣接する民間の武道場を使用してのリズム遊び、など、多彩なプログラムを実施しています。

【特に優れていると思われる点】

1. 環境構成の工夫

今年度、毎月実施の園内研修で、「ねらいと配慮から見た環境構成」について年間を通して取り組んでいます。いかに子どもが楽しめるようなものにするか知恵を集めました。子どもの手の届く棚に写真を貼って、わかりやすいようにおもちゃを分けて収納し、子どもが自由に取り出せるようにしたり、子どもが好きな電車遊びの運転レバーを手作りするなど子どもの主体性を重視しています。

2. 実践や振り返りを通してのサービスの質の向上

保育室のコーナーの内容や職員の配慮などの環境構成が毎月の保育のねらいや子どもの発達に沿って適正であったかクラス内で確認しているほか、職員会議や園内研修で施設長や他のクラスの職員からもアドバイスを受けて話し合い、次月につなげています。振り返りを通しての創意工夫から子どもたちの園生活の流れがつけられ、実践の中からサービスの質の向上につなげています。

3. 保護者の高い満足度

利用者アンケート結果によれば、総合満足度は96%（回収率58.6%）と保護者から高い支持を得ています。「あなたのお子さんが大切にされているか」「園生活を楽しんでいるか」

の項目は100%満足となっています。保護者とは日頃からコミュニケーションを密にして要望の把握に努め、理解を得ながら園運営を進めてきた結果と考えられます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 食事の場としての雰囲気づくりへの配慮

2歳児の食事室の隣が子ども用トイレでドアがなく、場所によっては食事をしている所から便器が見えます。構造的に難しい部分もありますが、食事中にはトイレへの視線をさえぎるような工夫が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

・設置法人の安全、安心を第一に、いつまでも思い出に残る保育をなどの4項目からなる運営理念のほかに、アスクあざみ野保育室としての保育理念「こどもには、情熱をもって、その心をよく観察し、創意工夫して、優美に接しましょう」を掲げており、子ども本人を尊重したものとなっています。園目標は「健康な身体をつくる」「豊かな感性を育てる」「優しい心を育てる」として保育にあたっています。保育室の特徴であるモンテッソーリ教育に関しては、日々の保育で理解を深められるようにしています。

・理念「こどもには、情熱をもって、その心をよく観察し、創意工夫して、優美に接しましょう」を実践するため、子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけ、子どもの模範となるように、職員は優美に穏やかに話すようにしています。

・子どもの人権に関する研修や毎日の反省会で、子どもに対する態度や声のかけ方、叱り方、言葉遣いなど気が付いたことを話し合っています。

・守秘義務については、入職時に意義や目的の説明を受け、会議などで事例をもとに話し合い、全職員に周知しています。

・職員は、遊びや役割、服装などで性別による区別をしていません。子どもたちは男女ともにお姫様になったり、人形をおんぶしたり、電車で遊んだりしています。

2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

・子ども一人一人の自主性を見守りながら子どもに寄り添い、基本方針に沿ったサービスが提供されています。

・全園児の個別指導計画を立て、成長段階での変化に応じて、必ず保護者と話し合い、進めています。

・活動的に過ごす場所、落ち着いて遊ぶ場所で保育室を分けたり、棚や段ボール、マットなどでコーナーを作り、人数や遊びによって使い方を工夫しています。1、2歳児のクラスは、食べる部屋と午睡の部屋を分けています。

・天気の良い時には1日2回園庭で遊ぶことができます。散歩は、年齢や月齢により、距離や階段・坂の多さで公園を選んでいきます。

・週1回隣接の武道場を借りて、リズム遊びをしています。

	・1歳児後半からモンテッソーリ教育の「お仕事の時間」を設け（2歳児は毎週1回、1歳児は隔週1回）、好きなお仕事を集中して遊ぶことができます。 ・食事のペースは子どもに合わせています。途中で眠くなった子どもは、園内を散歩して気分転換をはかったり、寝かせた場合はおやつを多めにするなど臨機応変に対応しています。 ・眠れない子どももしばらくの間は寝かせて体を休ませたのち別室で遊ぶ、夜眠れなくなる子どもには保護者と連絡を取った上寝る時間を短縮するなどの一人一人に応じた対応をしています。0歳児は5分毎、1歳児は10分毎に、プレスチェックと共に体を触って反応を見て、熟睡しないように気を付けています。 ・排泄チェック表をつけ、全部トイレでできた場合は◎、トイレとおむつの場合は○、トイレでできなかった場合は△にして保護者にも知らせ、◎が多くなると本格的にトイレトレーニングを始めるようにしています。 ・保護者とは個人別の連絡帳のやりとりや日々の送迎時のコミュニケーションを密に図っています。また、教材作り、七夕・運動会・クリスマス用の小物作りのために、保護者の手伝いを募集しています。クラスの違う保護者同士が、作業をしながら親睦を深め情報交換ができるようになっています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・職員には入社時の研修や施設長との面接時に理念、目標を明記した「園生活のしおり」を配付して、説明をしています。職員会議などでサービスの実施内容が理念や目標に沿っているかどうかを振り返り確認しあっています。 ・保育課程は、理念、基本方針、園目標に沿って作成し、毎年度末に常勤職員が中心となり見直しを行っています。 ・子どもの発達記録、子どもや家庭の情報は、児童票、要望・面談記録に記載しています。進級時の子ども一人一人の情報は、旧担任が個別ファイルを基に、新たに子どもの状況や申し送り事項を丁寧に記載したものを作成して、新担任に伝達しています。 ・職員は食物アレルギー疾患に関する研修を受講し、ケース会議では毎回話し合うようにしています。 ・外国籍の子どもの保護者から家庭での過ごし方や子どもの様子を詳しく聞き、職員間で共有しています。 ・要望、苦情受付の担当者は施設長と各クラスリーダーであり、「園生活のしおり」に明記し、入園時に説明しています。職員は送迎時に保護者に積極的に声をかけ、要望を聞くように心がけています。園のみで解決できない場合は設置法人本部や青葉区子ども家庭支援課と連携して対応しています。 ・安全管理マニュアル・災害マニュアルは、この園での対応について記載され、全職員に周知しています。子どものケガを防ぐために、玄関を降りる時、庭で遊ぶ時、散歩に行く時、入室する時などの手順、職員の目線、配慮などの詳細なマニュアルを作り、新しい職員には丁寧に安全研修をしています。

4.地域との交流・連携	・園に対する理解促進のために、保育室行事の夏祭り・運動会・親子遠足・リトミックのお知らせを門扉や近隣のコンビニエンスストアに掲示して地域の親子の参加を募っています。 ・今年度、保育課程に近隣の保育園の子どもたちと共に遊ぶことを楽しむ環境作りを加え、どろんこ遊びや公園遊びなどで交流しています。 ・利用希望者の問い合わせには、パンフレット（基本情報、利用条件、サービス内容などを記載）に沿って施設長がその都度説明し対応しています。利用希望者には、子どもたちが園で過ごしている様子の見学を勧めています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・園の中長期的な方向性を職員会議で話し合い、平成21年度～26年度年までの中長期計画を策定しています。長期計画として「健康な身体と心の土台づくりをする」「様々な人々の中で子どもたちを育てる」「一人ひとりに向き合った保育を」を掲げています。また中期計画は、「手作りおもちゃの充実」「園内研修の充実」「保護者を巻き込む保育」など各年度ごとの目標を定めています。 ・平成27年度、園舎移転後に認可保育所となることが決定しており、組織運営に備えては設置法人本部で検討しています。 ・主任は在籍していませんが、クラスリーダーが各クラスをまとめ、リーダー会議等でクラス同士の連携を図っています。リーダーは、施設長と連携しながらクラス職員の経験や能力に合わせた的確な、助言や指導を行っています。 ・職員が守るべき法・規範・倫理等は業務マニュアルや就業規則で明文化されており、全職員は入社時研修により周知しています。 ・設置法人本部にコンプライアンス委員会があり、園と職員を指導し、あわせて不正などを直接通報できるしくみがあり、連絡先を職員室に掲示しています。
6.職員の資質向上の促進	・職員の個人別年間研修計画を作成し、年に2回の施設長との面談で研修実績を振り返り、研修成果について達成度を評価し、必要な研修の見直しを行っています。 ・園内研修を毎月行っています。今年度は「ねらいと配慮から見た環境構成」について年間を通して行っています。 ・設置法人本部の研修、横浜市の研修など常勤・非常勤を問わず参加できるようになっています。非常勤は時間的な制約があるため、日々のミーティングの情報伝達、研修レポートの閲覧、会議録の回覧などで資質向上を図っています。 ・設置法人本部作成の「保育士に求められる役割と能力」に、職制と経験別の期待水準が明文化され、職員指導に利用されています。

	・園行事後には職員から改善点や良かった点などをアンケートや口頭で聞いています。結果を行事担当職員がまとめ、次回に活かすようにしています。
--	--

施設名:アスクあざみ野保育室

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	・ 設置法人の①安全、安心を第一に②いつまでも思い出に残る保育を③利用者のニーズにあった保育サービスの提供④職員が楽しく働けることの4項目からなる運営理念のほかに、アスクあざみ野保育室としての保育理念「こどもには、情熱をもって、その心をよく観察し、創意工夫して、優美に接しましょう」を掲げており、子ども本人を尊重したものとなっています。園目標は「健康な身体をつくる」「豊かな感性を育てる」「優しい心を育てる」とし保育にあたっています。保育室の特徴であるモンテッソーリ教育に関しては、日々の保育で理解を深められるようにしています。 ・ 職員には入社時の研修や施設長との面接時に理念、目標を明記した「園生活のしおり」を配付して、説明をしています。職員は、毎月の職員会議やリーダー会議でサービスの実施内容が理念や目標に沿っているかどうかを振り返り確認しあっています。 ・ 保育課程は、理念、基本方針、園目標に沿って、保護者の家庭状況や就労状況、地域の実態を考慮し、子どもの五感への刺激による発達にも配慮して作成し、毎年度末に常勤職員が中心となり見直しを行っています。今年度は、青葉区の園長会が開催されることを踏まえて、近隣保育園との遊びを楽しむことを新たに加えました。 ・ 保護者には、年度初めの運営委員会やクラス懇談会を通して、保育課程を説明しています。今年度の追加項目も説明しています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ・入園前に施設長と新入園児担当予定職員の2名で丁寧に親子面接を行い、子どもの様子やくせ・親子の雰囲気などを観察しています。
- ・面接時点で把握した生育歴や家庭の状況、面談で得た情報や留意点などを記入した年齢別の入園前面談シートは、提出書類と一緒に個人別にファイルし、全職員が日々の保育上、必要に応じて確認できるようにしています。食事、睡眠、排泄などは即保育に反映し、園生活を無理なく始められるようにしています。
- ・ならし保育の日程表があり、保護者の就業状況や考え方に応じて柔軟に対応しています。
- ・新入園児は主担当保育者を決めています。子どもの愛着のあるものを確認し、普段家庭で使っている抱っこ紐を借りて対応するなど、安心して過ごせるよう配慮しています。
- ・全員個別の連絡ノートがあり、その日の子どもの様子などを細かく記載して保護者との連携を密にしています。
- ・進級時には、0、1歳児クラスから職員の一人が必ず持ち上がるようにしています。
- ・指導計画は、クラス担任間の日々の反省会にて子どもの様子について話し合い、評価・見直しに反映させているほか、月1回の職員会議でもクラスの様子を話し合っています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・衛生マニュアル・清掃チェックシートに基づいて毎日清掃しています。保育室は各担任職員が行い、階段など共用部分は遅番の職員が中心となって行っています。園庭の砂場の掘り起こしは毎月行っています。沐浴・温水シャワー設備も同様に清掃しています。
- ・窓は保育室壁の下側にもあり、陽光を取り入れられるようにしています。加湿機能と除菌機能のある空気清浄機を設置しています。それ以外にも窓を開け、換気をしています。温湿度はチェックし、日誌に記録しています。
- ・各クラスとも広く、他クラスの声や音などが響くことはありません。職員はその場面に応じた声で語りかけています。
- ・活動的に過ごす場所、落ち着いて遊ぶ場所で保育室を分けたり、棚や段ボール、マットなどでコーナーを作り、人数や遊びによって使い方を工夫しています。1、2歳児のクラスは、食べる部屋と午睡の部屋を分けています。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・全園児の個別指導計画を立て、成長段階での変化に応じて、必ず保護者と話し合い、進めています。
- ・クラス担任間の日々の反省会にて子どもの様子を話し合っています。担任以外の職員が違うクラスに入り、別の視点で気づいたことを話し合う機会を設けています。
- ・入園後は、毎月身体測定結果を個人健康記録票に記入し、発達記録は遊び、情緒、生活の項目ごとに毎月チェックしています。子どもや家庭の情報は、児童票、要望・面談記録に記載して、書庫に保管し、全職員が共有できるようにしています。

<工夫している事項>

- ・進級時の子ども一人一人の情報は、旧担任が個別ファイルを基に、新たに子どもの状況や申し送り事項を丁寧に記載したものを作成して、新担任に伝達しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。個別のケースについては、職員会議やリーダー会議において共有しています。
- ・現在まで障がいのある子どもの申し込みがなく、医療機関や専門機関との連携の実績はありませんが、障がいの特性や障がい児保育について職員間で学び同じ認識を持っています。
- ・虐待防止マニュアルがあり、全職員は入社時研修で学び、虐待の定義を周知しています。現在まで事例はありませんが、虐待が明白になった場合、疑われる場合は、まず施設長が設置法人本部に連絡し、児童相談所や青葉区こども家庭支援課と相談できるよう連携体制を整えています。
- ・アレルギーのある子どもの食事トレイや食事用エプロンの色を変え、配膳は複数の職員でチェック表を確認しながら誤食のないように努め、0、1歳児は職員が隣につき、介助しています。
- ・外国籍の子どもの保護者から家庭での過ごし方や子どもの様子を詳しく聞き、職員間で共有しています。園でのみ日本語を使用する家庭の方針を尊重しています。
- ・意思疎通が困難な保護者や子どもには、写真や絵、ノートを用意して対応する体制を整えています。

<コメント・提言>

- ・障がいのある子どもについては過去3年間、受け入れ実績がありません。

評価分類	評価の理由（コメント）
I－6 苦情解決体制 	・要望、苦情受付の担当者は施設長と各クラスリーダーであり、「園生活のしおり」に明記し、入園時に説明しています。玄関に意見箱を置き、行事の後に保護者アンケートを行い、意見や要望の把握に努めています。職員は送迎時に保護者に積極的に声をかけ、要望を聞くように心がけています。 ・苦情・要望申し出の外部の窓口として、青葉区福祉保健センターサービス課の連絡先を「園生活のしおり」に明記し、入園時に説明しています。 ・苦情対応マニュアルがあり、園のみで解決できない場合は設置法人本部や青葉区こども家庭支援課と連携して対応しています。 ・要望・苦情などがあった場合、対応の内容をクレーム受理票に記入するとともに職員会議で話し合い、全職員が情報を共有・周知しています。また、対応策を考え、改善に努めています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－1 保育内容[遊び] 	・子どもの手の届く棚に写真を貼って、子どもにもわかりやすいようにおもちゃを分けて収納してあり、子どもは自由に取り出して遊んでいます。 ・移動式の段ボールの仕切りを作り、子どもが集中して遊べるような工夫をしています。 ・プランターでトマト、ジャガイモ、枝豆、イチゴ、スイカなどを栽培し、2歳児の当番が水やりをして収穫したものをクッキング保育に使っています。 ・子ども同士のけんかでは、お互いの気持ちを伝えられるように援助しています。かみつきは、職員がしっかり見て事前に防ぐように努めています。 ・年度末には、数人ずつ上のクラスで食事を一緒にとる異年齢ランチ会をしています。 ・天気が良い時には1日2回園庭で遊ぶことができます。夏は園庭でプールをし、散歩は、年齢や月齢により、距離や階段・坂の多さで公園を選んでいきます。 ・週1回隣接の武道場を借りて、ハイハイをしたり、リズム遊びをしたりしています。また、0、1歳児は裸足で過ごし、特に親指の発達を促すようにしています。 <工夫している事項> ・保育環境設定検討会として、保育室内のコーナーなどをいかに安全で子どもが楽しめるようなものにするかを園内研修で知恵を集めました。 ・1歳児後半からモンテッソーリ教育の「お仕事の間」を設け（2歳児は毎週1回、1歳児は隔週1回）、好きなお仕事を集中して遊ぶことができます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- ・残さず食べることができるよう、苦手な食材を一口でも食べた時はほめて自信を持たせるようにしています。0、1歳児については、食べず嫌いをなくすために、おなかがいっぱいになる食べ始めに前菜を提供しています。
- ・授乳は、安心できるようにいつも同じ職員が同じ場所で抱っこして目を合わせて与えています。
- ・食事のペースは子どもに合わせています。途中で眠くなった子どもは、園内を散歩して気分転換をはかったり、寝かせた場合はおやつを多めにするなど臨機応変に対応しています。
- ・食材はなるべく国産の物を使い、食材の産地を玄関に掲示しています。
- ・食器は陶器で、0、1歳児はすくいやすいように縁の高いもの、2歳児は小鉢を使うなど子どもの成長・発達に合わせています。
- ・慣らし保育の2日目に給食の試食をし、2歳児の保育参加の時にも試食できるようになっており、園で配慮していることを知らせています。
- ・眠れない子どももしばらくの間は寝かせて体を休ませたのち別室で遊ぶ、夜眠れなくなる子どもには保護者と連絡を取った上寝る時間を短縮するなどの一人一人に応じた対応をしています。
- ・0歳児は5分毎、1歳児は10分毎に、ブレスチェックと共に体を触って反応を見て、熟睡しないように気を付けています。うつぶせ寝にならないように気を配っています。
- ・トイレトレーニングを始めるにあたって保護者とは密に連絡を取り、本人にもおむつかパンツにするか聞いてから始めています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・健康管理マニュアルがあり、0、1歳児や熱性痙攣の既往症のある子どもは朝や午睡後など時間を決めて体温を測っています。
- ・入園時に保護者が記入した児童健康調査表から既往症の情報を得、年2回の健康診断の所見を記入して保護者に返し、追加があれば記入してもらいます。
- ・熱があるなど必要な時はすぐ電話連絡をし、そうでない場合も咳、鼻水など園での健康状態は申し送りノートに記録して送迎時に必ず保護者に伝え、その後の対応について話し合っています。
- ・1歳児から歯磨き指導をして歯磨きの歌を歌いながら職員による仕上げ磨きをしています。2歳児はおやつ後も歯磨きをしています。
- ・手洗い歌の歌詞を洗面台の上に貼り、歌を歌いながら子どもが丁寧に手を洗えるようにしています。
- ・保育中に感染症を発症した場合は、保護者にすぐに連絡しています。すぐ迎えに来られない時は、園で対応しています。玄関と各クラスの入口に、どこのクラスで何名発症したかの掲示をしています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 理[衛生管理]



・衛生管理に関するマニュアルがあり、入職時に研修を受けるほか、年度初めには園内研修などでこの園でのやり方を全職員が周知しています。

・保育室、玄関、廊下、トイレ、エアコンなどの清掃は、マニュアルに基づき、当番を決めて実行し、清掃記録表に記入しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 理[安全管理]



・安全管理マニュアル・災害マニュアルは、この園での独自の対応について記載され、全職員に周知しています。

・月1回、消防訓練を行っています。火災、地震、通報など、時間帯や屋外など場所も変えて訓練をしています。

・正規職員は全員赤十字幼児安全法を身に付けています。

・小さなケガやかみつきでも保健日誌、申し送りノートに記載し、保護者に状況を口頭で報告しています。

・警備会社と契約して、不審者などに対する緊急通報体制（室内、散歩時）ができています。不審者に対する訓練も合言葉を決めて幼児施設と一緒に実施し、警察OBの指導、助言をもらっています。また、不審者出没場所別の避難マニュアルも作っています。

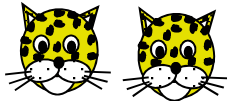
<工夫している事項>

・子どものケガを防ぐために、玄関を降りる時、庭で遊ぶ時、散歩に行く時、入室する時などの手順、職員の目線、配慮などの詳細なマニュアルを作り、新しい職員には丁寧に安全研修をしています。

・公園に散歩に行く時には、自分の担当する子どもの人数だけ違う色の輪ゴムをはめ、途中で見る子どもが変われば輪ゴムも交換するなど、最後まで責任を持って子どもを見る体制が確立しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－３ 人権の尊重 	・理念「こどもには、情熱をもって、その心をよく観察し、創意工夫して、優美に接しましょう」を実践するため、子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけ、子どもの模範となるように、職員は優美に穏やかに話すようにしています。 ・毎日の反省会で、子どもに対する態度や声のかけ方、叱り方、言葉遣いなど気が付いたことを話し合っています。施設長も気が付いた時には、「なぜそういうことをしたの？」と職員に理由を考えさせるようにしています。 ・職員が子どもの人権に関する研修を受け、会議などで報告したものをもとに、子どもの自尊心を尊重した保育について話し合っています。 ・守秘義務については、入社時に意義や目的の説明を受け、会議などで事例をもとに話し合い、全職員に周知しています。 ・個人情報の取り扱いについては「園生活のしおり」に載せてあり、保護者にも説明しています。 ・個人情報に関する書類は鍵のかかる棚に保管し、園外には持ち出さないようにしています。パソコンもパスワードでロックしています。 ・職員は、遊びや役割、服装などで性別による区別をしていません。子どもたちは男女ともにお姫様になったり、人形をおんぶしたり、電車で遊んだりしています。
Ⅱ－４ 保護者との交流・連携 	・年度初めの保護者会で、基本方針について説明しています。行事後のアンケートでは、園への意見・要望欄を入れて記入してもらい、保育方針が理解されているか把握しています。 ・年3回の保護者会で、各クラスの目標、方針などを詳しく記したクラスだよりと保健師が作成した保健だよりを配付しています。 ・保育連絡ノートで個人の細かい様子を書いて保護者と情報交換し、ホワイトボードにはその日のクラスの活動を記しています。送迎時には、その日の子どもの様子を口頭で伝えるようにしています。 ・個別面談は、6月と12月に2週間の期間を設定し、保護者の都合のいい時に実施しています。 ・相談は記録して職員で共有し、継続的に支援できるようになっています。今年度は5件の相談が記録されています。 ・2歳児の保育参加は年度の前半と後半に分けて、前半は午前中のみ、後半はおやつ後まで参加できます。クッキング保育への参加は2名までですが、散歩などは数名でも参加することができます。保育参観は年1回ですが、廊下から観察するならいつでもできることになっています。 <工夫している事項> ・教材作り、七夕・運動会・クリスマス用の小物作りのために、保護者の手伝いをお願いしています。クラスの違う保護者同士が、作業をしながら親睦を深め情報交換ができるようになっています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・ 地域の子育て支援ニーズについては、職員会議などで話し合っています。 ・ 子育て相談を実施していますが、実績はありません。園見学をした人からは相談を受け、見学ノートに記録しています。 ・ 青葉区子育て支援拠点ラフールや青葉区園長会と連携しています。 <コメント・提言> ・ 地域の子育て支援のために一時保育の提供ができますが、今年度は実績がありません。地域住民への周知方法を期待します。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・園に対する理解促進のために、保育室行事の夏祭り・運動会・親子遠足・リトミックのお知らせを門扉や近隣のコンビニエンスストアに掲示して地域の親子の参加を募っています。 ・保育室の隣にある剣道場をリズム遊びの保育に使用しています。2歳児クラスは図書館での読み聞かせに参加したり、本を借りています。時には散歩で消防署にも立ち寄っています。 ・今年度、保育課程に近隣の保育園の子どもたちと共に遊ぶことを楽しむ環境作りを加え、どろんこ遊びや公園遊びなどで交流しています。 ・散歩時に公園で会った親子と一緒に遊んだり、クッキングの材料を近くのスーパーに子どもと買い物に行っています。子どもたちは、散歩時には出会う近隣の方と挨拶を交わしています。
Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 	・設置法人本部でのホームページで園の詳しい情報を発信しています。横浜市の「はびねすぽっと」や情報サイトといった外部機関にも園情報を提供しています。 ・ホームページやパンフレットにサービスの内容など載せています。ホームページには利用希望者からよくある質問を載せています。 ・利用希望者の問い合わせには、パンフレット（基本情報、利用条件、サービス内容等を記載）に沿って施設長がその都度説明し対応しています。保育に支障がない限り利用希望者の都合に合わせて見学案内をしています。利用希望者には、子どもたちが園で過ごしている様子の見学も勧めています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
V-1 職員の人材育成 	・施設長は園運営に必要な人材や配置状況を把握し、不足の場合は設置法人に要請して人材補充を行っています。 ・人材育成計画は設置法人の運営理念や方針に基づき策定されており、法人の「人材育成ビジョン」に基づき、人材の育成に取り組んでいます。 ・個人別年間研修計画を作成し、年に2回の施設長との面談で研修実績を振り返り、研修成果について達成度を評価し、必要な研修の見直しを行っています。 ・園内研修を毎月行っています。今年度はねらいと配慮から見た環境構成について年間を通して行っています。 ・設置法人本部の研修、横浜市の研修など常勤・非常勤を問わず参加できるようになっています。職員は参加した研修記録レポートを作成し、職員会議で報告し、クラス運営に反映させています。非常勤は時間的な制約があるため、日々のミーティングの情報伝達、研修レポートの閲覧、会議録の回覧などで資質向上を図っています。

評価分類	評価の理由（コメント）
V-2 職員の技術の向上 	・園としての自己評価は毎年受審している第三者評価で行い、サービスの質の向上に取り組んでいます。 ・同一法人内姉妹園との交換研修があり、職員はできる限り参加したり、保育技術の指導を、同施設内にある他幼稚園の園長から受けています。他園の工夫や自室の良い点に気付き、職員会議等で話し合い、園の保育サービスの質の向上に繋げています。 ・保育日誌・週案・月案・年間指導計画すべてに評価・反省項目があり、自己評価ができる書式となっています。自己評価は、評価項目に従って子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視して行われています。 ・第三者評価結果報告書は横浜市など行政から公表されますが、報告書を園玄関にも掲示して、保護者が閲覧できるようにしています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ・設置法人本部作成の「保育士に求められる役割と能力」に、職制と経験別の期待水準が明文化され、職員指導に利用されています。
- ・クラス運営はリーダーに可能な限り主体的、自主的、自発的に判断して保育にあたるよう権限を委譲するとともに、事後、職員から施設長に報告・連絡・相談を行うようにしています。
- ・園行事後には職員から改善点や良かった点などをアンケートや口頭で聞いています。結果を行事担当職員がまとめ、次回に活かすようにしています。
- ・施設長は職員からの意見が出やすいような雰囲気作りに心がけています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	・職員が守るべき法・規範・倫理等は業務マニュアルや就業規則で明文化されており、全職員は入社時研修により周知しています。 ・設置法人本部のホームページで園の経営、運営状況を公開しています。 ・設置法人本部にコンプライアンス委員会があり、園と職員を指導し、あわせて不正などを直接通報できるしくみがあり、連絡先を職員室に掲示しています。他施設の不適切な事例などを職員会議で話し合い、職員のモラルアップを図っています。 ・行事の夏祭りでは、保護者から不要になった服や絵本など寄付を募り、リサイクルコーナーを設けるなど保護者にも関心を高めてもらえるようにしています。 ・保育課程に「身の回りの資源を大切にする」項目を設け、明文化を図っています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・設置法人の理念・基本方針と園独自に作り上げた理念・保育目標を園廊下に掲示し、入社時研修などで職員の周知を図ると共に、「園生活のしおり」を配付しています。 ・毎年指導計画作成時に理念・基本方針に立ち返り、理念・方針を確認しています。 ・平成27年度に園舎移転後、横浜保育室から認可保育所となることが決定しており、臨時の保護者会を設定しています。会議には設置法人の取締役も出席して経緯を説明しています。保護者からさまざま不安の声が出ていますが、アスクあざみ野保育室の良さを継承していくために、近隣の系列保育園との合同勉強会や保育室全職員による園内研修の充実等を図っていくことを説明しています。 ・主任は在籍していませんが、クラスリーダーが各クラスをまとめ、リーダー会議等でクラス同士の連携を図っています。 ・リーダーは、施設長と連携しながらクラス職員の経験や能力に合わせて的確な、助言や指導を行っています。職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に臨めるよう常に配慮し、施設長に伝え、施設長がシフト調整をしています。

VI-3 効率的な運営



- ・園の中長期的な方向性を職員会議で話し合い、平成21年度～26年度までの中長期計画を策定しています。長期計画として「健康な身体と心の土台づくりをする」「様々な人々の中で子どもたちを育てる」「一人ひとりに向き合った保育を」を掲げています。また中期計画は、「手作りおもちゃの充実」「園内研修の充実」「保護者を巻き込む保育」など各年度ごとの目標を定めています。
- ・平成27年度、園舎移転後に認可保育所となることが決定しており、組織運営に備えては設置法人本部で検討しています。
- ・運営に関して、設置法人本部は関係する外部の機関や専門家などの意見を取り入れています。

利用者本人調査 (アスクあざみ野保育室)

◇0歳児

(雪遊び)

部屋にビニールシートを敷き、その上の大きなたらいに本物の雪が入れてあります。子どもたちははしゃいで、ままごとの包丁で切ったり、スプーンですくったりして遊んでいます。たらいの周りを回っている子ども、冷たい雪を前にして立ちすくんでいる子どももいます。遊んだあと足が冷たく濡れてしまったため、今度はお湯を入れたたらいの周りにすわって、足湯をして温めました。

(給食)

スパゲッティと鶏肉とサラダを1皿に盛りつけてあり、フォークで食べようと頑張ります。エプロンに入ってしまうこともあります。職員に助けられて最後まで食べます。「よく食べたね。」と職員が誉めます。カップに入っているスープの具はフォークで食べ、そのあとスープを飲みますが、エプロンに全部こぼしてしまう子どももいます。途中で眠くなった子どもは、職員に「寝ようか」と言われて、エプロンを自分から外してテーブルから離れました。

(午睡)

着替えてお布団に横になった後は、職員がトントンしたり、手足をさすったりして寝かせます。職員は5分おきに子どもの身体をさわって呼吸や体位をチェックしています。

(おやつ)

さつまいもが1口大に切っており、牛乳と交互に自分でフォークを持って食べています。サツマイモを食べ終えた子どもにはゼリーが渡され、子どもたちは「おいちい」と何度も言いながら顔をほころばせて食べ始めます。園長先生や調査員が部屋に入ってくると、食べるのを止めて首をかたむけてじっと見つめる子どももいます。

◇1歳児

(絵具遊び)

部屋にシートを敷き、緑色の絵具を手付けて、子どもたちはシートの上に置いた画用紙に手でペタペタ塗ります。手が画用紙にくっついて、持ち上がってびっくりしている子どももいます。顔に付いたり、服に付いたりしてもかまわず、うれしそうに緑色の手のまま歩きまわっています。そのあと、水道の前の足型に合わせて順序よく並び、「手洗いの歌」を歌いながら、職員にてつだってもらっていいいに手洗いをしました。

(給食)

フォークを使って上手に食べます。ずっとおしゃべりしていた子どもも、「頑張って食べようね」と職員に言われて、食べ始めます。「集まれして」とあちこちから声がかかり、職員も大忙しです。食べ終わったら今度はスープをもらいます。スープを飲んだ子どもは、「びかびか」と言って職員に見てもらい、「おかわりは？」と聞かれておかわりする子どももいます。

食べ終わった子どもは、輪が付いてのどの奥まで届かない歯ブラシを渡され、「時計の 8 まで自分でやろうね。」と職員に言われ、自分で磨きます。そのあと職員に仕上げみがきをしてもらい、隣の部屋に行ってお着替えます。

(排泄)

給食の途中で、もそもそして食が進まなかった子どもを「〇〇ちゃんをトイレに連れて行って下さい」と職員が別の職員に頼み、トイレに連れて行きます。戻ってきたら、給食を食べ始めました。

(午睡)

一生懸命パジャマのズボンをはこうとしても、なかなか最後まではけなかったのを、職員が最後は手伝います。お布団が敷いてある部屋に行き、まだ他の子どもがいない時には布団の上を走り回ります。そのうち他の子どもも増えて、布団の上に寝ます。眠れない子どもは、職員に体をさすってもらいます。

(タオルしぼり)

午睡の後、2 人の子どもが水道のところでタオルをしぼる練習をしています。上から順番にしぼっていくように職員から指導を受け、「上手にできたねえ」と誉められていました。

(園庭遊び)

おやつの後、園庭で遊ぶことになりました。靴下を自分で履こうと頑張っている子ども、上着を頭に載せて部屋の中で走り回っている子どもといろいろです。やっと支度ができて園庭に降り、遊び始めました。タイヤの上に乗ったり、土管の中を覗き込んだり、それぞれ好きなことをして遊び始めました。

◇ 2 歳児

(遊び)

雪で園庭あそびができないため、予定を変更して、保育室内で雪合戦ごっこです。保育室を椅子で半分に仕切り、たくさんのカラフルな小さなポンポンを相手側に投げ入れます。子どもたちは大はしゃぎ。最後は職員と子どもたちに分かれて対戦です。職員も真剣で熱が入っています。その後は自由遊びで、ブロックや電車ごっこ・プリキュアごっこなど思い思いに遊んでいます。運転手役の子が「次はあざみの～、ゆれますよ～」お客さん役の子は「たまブラザーまでお願いしま～す」と、楽しいやりとりが続きます。傍らでは、卒園に向けての手形・足型とりを一人一人呼んで行っています。ピンク・オレンジ・グリーン・ブルーの四色の絵の具から子どもは好きな色を選びます。職員が足裏に絵の具を塗っていくと「つめたーい」「くすぐったーい」ときやつきやと歓声があがります。

(給食)

給食当番 2 名が、配膳のお手伝いをします。お皿やお碗を両手で注意深く運びます。別の子は、別室で布団敷きのお手伝いを頑張っています。献立はスパゲティでしたが、どの子も上手に食べています。食欲は旺盛で何人もおかわりします。展示している雪だるまの作品を指さし、「私のはあれ、〇〇ちゃんのはあれ」と調査員に教えてくれます。職員 1 名が同席して、おしゃべりをしたり、さりげなく促したり、介助をしています。

(午睡)

食事を終えた子から、洗面台前の椅子にきちんと座って歯磨きをしています。職員が仕上げ磨きをして、順次布団に横になります。柔らかいオルゴールの音色の中、職員はトントンしたり、おでこを優しくなでたりと一人一人が入眠しやすいよう配慮しています。

(排泄)

活動の区切りには、職員がトイレを促しますが、それ以外でも、一人一人の間隔で、「先生トイレ行ってくる」と伝えて、自由に行っています。大便の後は、「先生、でた～」と伝え、職員に介助してもらっています。

利用者家族アンケート

結果の特徴

【アンケートの送付数、回収率など概況】

アンケート送付数:29世帯

アンケート回収数:17世帯

回収率:58.6%

「満足」「まあ満足」の合計で記述します。

【結果の特徴】

1. 施設の基本理念や基本方針について

・「満足」「まあ満足」の合計で、100%が満足と回答しています。

上記の回答者のうち理念や方針への共感

・100%が共感できると回答しています。

2. 入園したときの状況

・全ての項目で100満足との回答を得ています。

3. 保育園に関する年間の計画について

・全ての項目で100%満足と回答しています。

4. 日常の保育内容について(遊び)

・日常保育について、「まだ子どもが話せないので分からない」が6%ありますが、その他の項目は全て100が満足と回答しています。

日常の保育内容について(生活)

・「おむつはずし」「けがの説明」の項目で、それぞれ6%が「どちらかといえば不満」の回答がありました。また、「おむつはずし」の項目で18%がその他でした。これはまだ未実施のためです。それ以外の項目で76%以上が満足でした。

5. 保育園の快適さや安全対策について

・施設について「やや不満」が18%ありました。これは平成9年開設の施設で、建物が古いためです。また、不審者対策で24%が「どちらかといえば不満」がありました。木造の建物のため不満が見られました。

6. 園と保護者との連携・交流について

・全ての項目で100%「満足の回答がありました。

7. 職員の対応について

・「お子さんが大切にされているか」「楽しんでいるか」についての項目ではそれぞれ100%が満足と回答しています。その他の項目でも「満足」「やや満足」の合計では100%でした。

8. 総合評価

・「満足」が94%「どちらかといえば満足」が6の回答で、非常に高い評価を得ています。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	47%	53%	0%	0%	0%	0%



問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への共感	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	88%	12%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	88%	12%	0%	0%	6%	0%
	その他:見学はしていない。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の目標や方針の説明には	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	88%	12%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	82%	18%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	70%	30%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	82%	12%	0%	0%	6%	0%
	その他:とても楽しんで通っています。 まだ話せないので不明。					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	64%	30%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	82%	18%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的生活習慣（衣服の脱着、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	87%	13%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	82%	18%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつ外しは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	64%	12%	6%	0%	18%	0%
	その他:まだ家庭では実施していない。(2件)					
お子さんの体調への気配りについては	82%	18%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	82%	12%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	18%	64%	18%	0%	0%	0%
	その他:木造でなければ満足です。					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	24%	52%	24%	0%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	58%	36%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	76%	18%	0%	0%	6%	0%
	その他:まだ未実施。					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	82%	18%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	82%	12%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	88%	12%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	100%	0%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	100%	0%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	94%	6%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	94%	6%	0%	0%	0%

平成25年度 第三者評価事業者コメント

(アスクあざみ野保育室)

《受審の動機》

昨年度に引き続き、第三者評価を受審させていただきました。園の運営を振り返るとともに、今現在や今後の課題を見出す有効な手段として感じたためです。

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を基に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。評価機関の選定については、現在行っている保育内容に加え、昨年ご指摘いただいた点が、どの程度まで改善できているかを明確に比較できるよう、昨年度と同様の機関へ依頼しました。

《受審した結果》

自己評価での個々や自園の見直しは問題をクリアにしていく上で大変重要であり、新たな気付きが得られる良い機会となりました。全職員が同時期に「保育」を見直すことで運営方針や理念、今後園の目指していく方向性を再確認することが出来ました。このことで、職員の意識が高まり、保育の質の向上につながっていくと感じています。

また、今回の保護者アンケートで、高い評価をしていただき、大変嬉しく思います。職員のモチベーションアップに繋がる結果でした。今後も引き続き、保護者の皆様にこのような評価をいただけるよう努めてまいります。

これからも、職員が働きやすく、楽しんで仕事に取り組める職場を目指し、そして利用者のニーズに耳を傾け、それに沿った保育サービスを提供していき、また、利用者以外の地域住民にも親しみのある、地域に根差した園になれるよう、評価結果を真摯に受け止め、職員の意識向上を保育の質向上へとつなげてまいります。

最後に、受審にあたりご尽力いただいた、評価機関の皆様、ご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に心より感謝申し上げます。